児童に見られるつまずき

　筆算の手順の意味を、数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　問題場面や式を十のまとまりなどの図を用いて表現させたり、キーワードを用いて、図と式を関連付けて計算の仕方を説明させたりすることで、筆算の手順や意味についての理解を深めさせる。

指導事例集ｐ．２１

１　学年・単元名　　第３学年　１けたをかけるかけ算の筆算（数と計算領域）

２　単元目標

　　（２、３位数）×（１位数）の計算の仕方を、数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができる。

参考：単元みとおしカード

３　単元の内容

**・２桁×１桁の筆算**

・３桁×１桁の筆算

（繰り上がり無し、繰り上がり１回２回３回）

・かけられる数に０がある筆算

・暗算・○○○○・・・・

４　本時の目標（①教科のねらい　②学び合い）

①１２×４などの（２位数）×（１位数）の計算の仕方を説明できる。

②意味理解を助ける板書を手がかりにペアで計算の仕方を説明し合うことができる。

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階配時 | 学習活動 | 手立て（・）と評価の視点（☆教科　★学び合い）**つまずきに対する手立て（◆）** |
| 見通す（８） | １　本時の問題を知り立式する。・１２本が４箱なので１２×４。２　見通しをもつ。・答えの見当をつける。・１２を１０と２に分ける。参考：ノート１２×４の計算のしかたをせつ明しよう。 | ・問題文を全員で読ませ、問題場面を把握させる。**◆図を描くことで数のまとまりを意識させる。**・教科書のヒントを見せ、１２本は１０本より多いことから見当をつけさせる。・前時に１０円玉で計算できたことを想起させ、１０と２に分ける見通しを持たせる。 |
| 　取り組む・学び合う（２５） | ３　問題を解く。・１２本を１０本と２本に分ける。・１０×４＝４０　　４０本・２×４＝８　　８本・４０本と８本を合わせる。・４０＋８＝４８　　４８本４　計算の仕方を説明する。・ペアで交流する。・クラスで交流する。５　適用問題を解き、説明する。・１３×２（繰り上がりなし）参考：授業の様子 | ・１０円玉では計算できたことから、１２本を１０本と２本に分けて計算させる。・式や答えを教師と一緒に少しずつ解いていくことで、算数を苦手とする児童にも答えの見通しが持てるようにさせる。参考：板書・説明させるとき、計算の意味理解を助ける手順表を板書しておく。分ける　１０のくらい　１のくらい　合わせる・手順表の横に式を板書し、説明と式が対応しやすいようにする。**◆「分ける」「１０の位」「１の位」「合わせる」のキーワードを使うことで、図と式を関連させて説明させる。**・ペアで発表させ、活動頻度を高める。☆１２×４の計算のしかたを説明できたか。★ペアで説明するとき、ペアが指差すノートや顔を見ながら聞いたか。 |
| まとめる（８） | ６　本時の学習内容を使って挑戦問題を解く。・１３×４の場合は。（繰り上がりあり）・２けた×１けたの計算は、かけられる数を１０の位と１の位に分けて計算すればよい。 | ・前までの問題と同じように１３を１０と３に分けて計算させる。☆１３×４の計算のしかたを説明できたか。★ペアで説明するとき、ペアが指差すノートや顔を見ながら聞いたか。 |
| 振り返る（４） | ７　学習の振り返りをする。・はげみカードに記入する。参考：はげみカード | ・１２×４の説明をはげみカードに書かせることで、学習内容について具体的に振り返らせる。 |